

# 当クリニックにおける エコーガイド下穿刺の現状

(特医) 衆済会増子クリニック

臨床工学課 1) 看護部 2) 腎臓内科 3)

(特医) 衆済会増子記念病院

糖尿病・内分泌内科 4) 臨床工学課 5)

近藤聖也 1) 原田啓之 2) 鹿島伸康 1)

平松英樹 5) 佐藤哲彦 4) 山崎親雄 3)

# 背景・目的

当クリニックでは、2015年7月よりGEヘルスケア社製のLOGIQ<sub>e</sub>を使用し、バスキュラーアクセス(以下VA)の評価及びエコーガイド下穿刺(以下ガイド下穿刺)を実施している。

今回、特にガイド下穿刺についての現状を報告する。

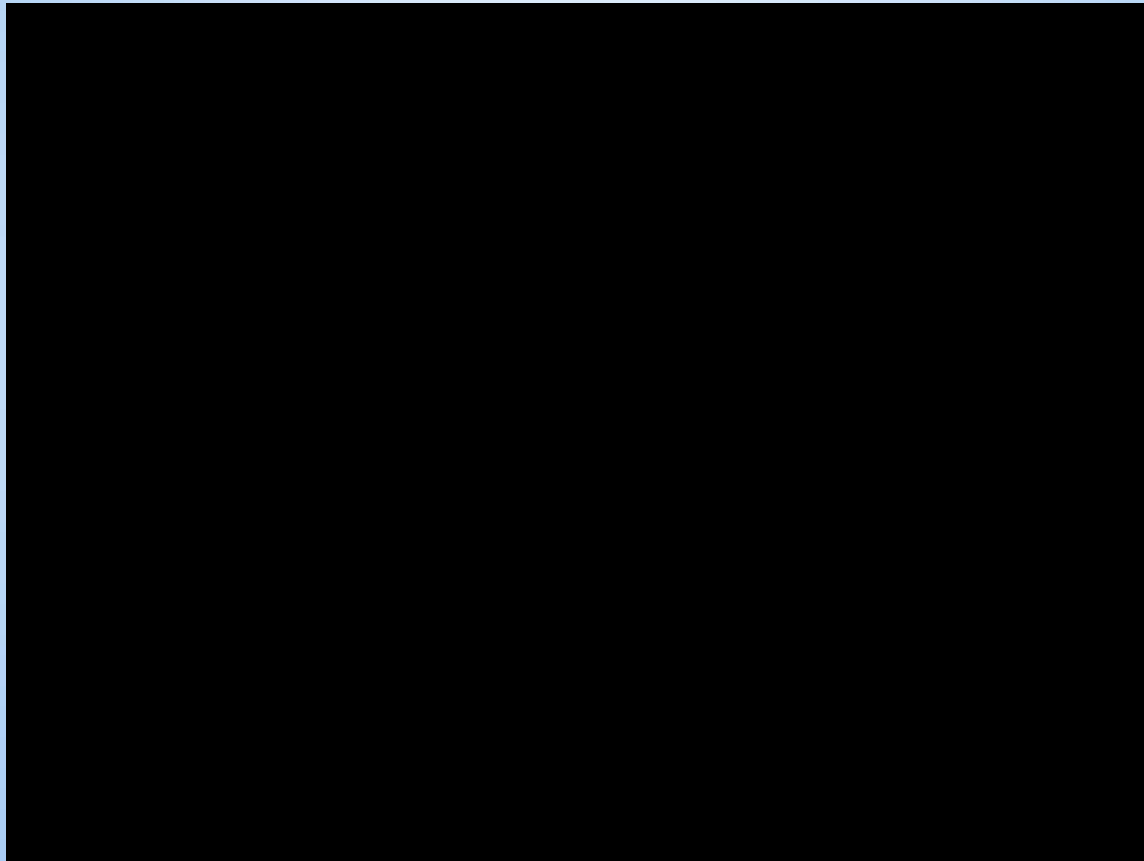
# 対象

- VAが未発達で穿刺部位が局限している。
- 血管が深くて捉えづらい。
- 穿刺困難が続いている(浅い、細いなど)。



ガイド下穿刺を施行。

# エコーガイド下穿刺の方法



身体をひねって穿刺しづらい！！



# エコー装置とテレビモニターの接続

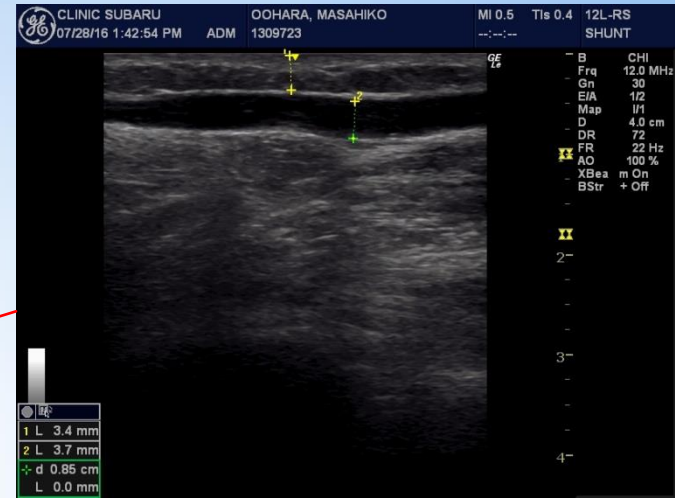
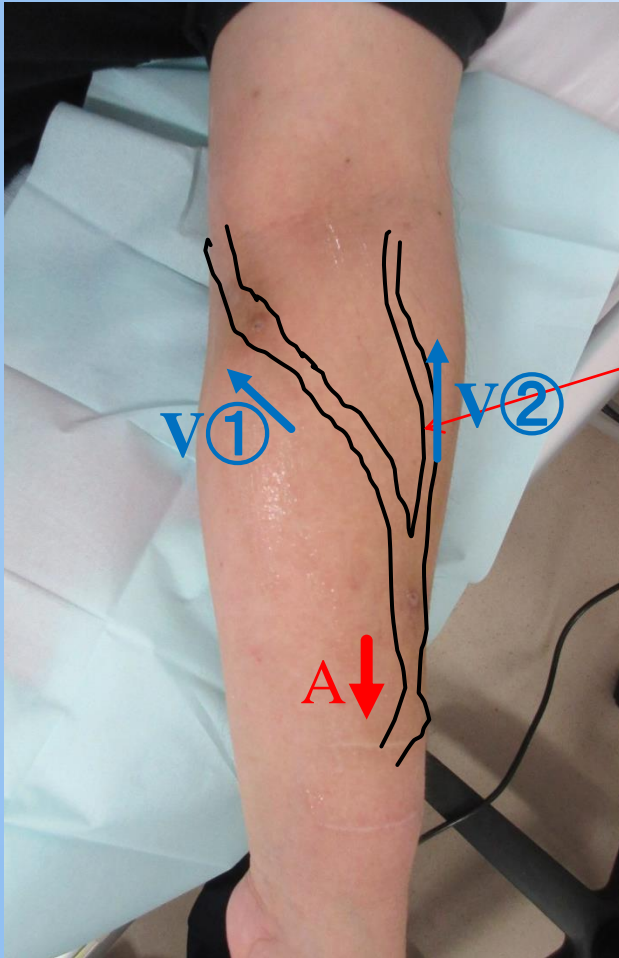




# モニター接続時の穿刺風景



# 症例①



性別：男性

年齢：50代

透析歴：3年

原疾患：糖尿病性腎症

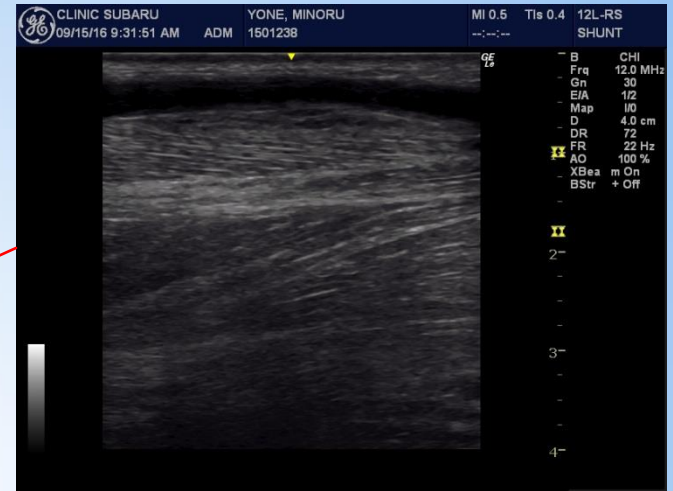
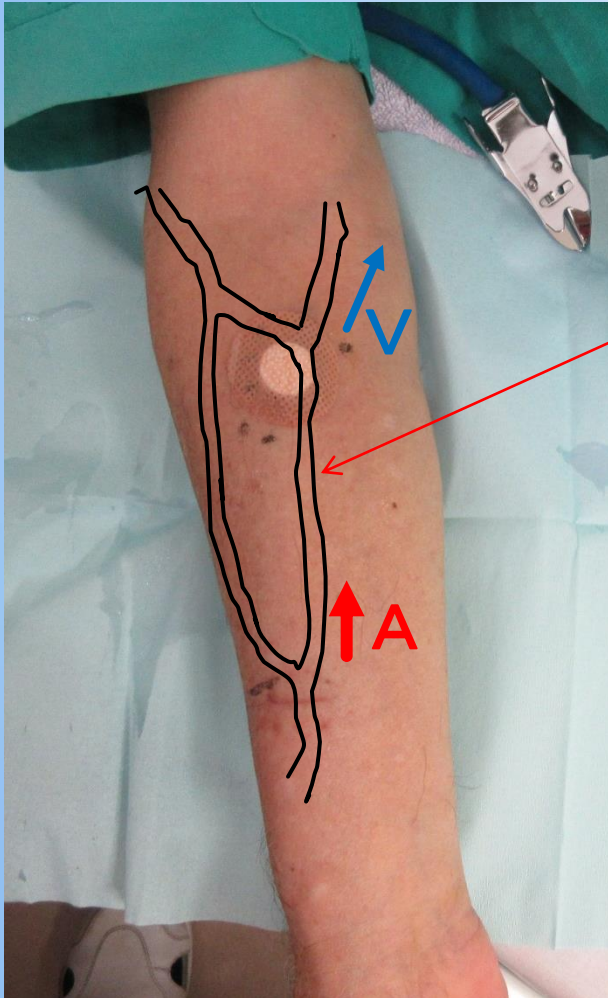
VAの種類：左AVF

背景：シャント血管の発達が悪く、  
患者の穿刺痛も強かったため  
ボタンホール穿刺を行っていた。

血管の深さ：3.4mm  
血管径：3.7mm



## 症例②



性別：男性

年齢：70代

透析歴：1年

原疾患：糖尿病性腎症

VAの種類：右AVF

背景：もともと左AVGを使用していたが頻回な閉塞を繰り返していたため右前腕へAVFを作成。

血管の深さ：2.1mm

血管径：2.0mm

# 結果

エコーの活用により、穿刺トラブルの多い患者において、より良い穿刺部位を確定でき、大きなトラブルがなく穿刺可能となった。

# まとめ

ガイド下穿刺は、穿刺トラブルが続いているVAの穿刺を行うのに有用であり、スタッフ・患者ともに穿刺トラブルによるストレスの軽減につながった。

# 今後の課題

現在ガイド下穿刺が可能なスタッフは6名のみであり、穿刺トラブル時に必ずガイド下穿刺が行えるわけではない。

指導マニュアルの作成を進め、ガイド下穿刺を含めたVA管理可能な人材の育成に力を入れていきたい。

ご清聴ありがとうございました。